

HIMALAYA

ヒマラヤ

No. 349



2000 DECEMBER



日本ヒマラヤ協会
THE HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN — HAJ

2001年H A Jサマー・キャンプ隊員募集

桑頂抗沙峰 (6,590m)

チベットのラサから北北東（直線距離で約135km）に美しい山容の山があります。周囲の山々を睥睨するかのように峻立するその姿は、白い雲にまとわれて見る者は息をのまざるを得ません。

この山は1992年日本隊によって初登頂されていますが、その後登山隊の消息はありません。

そこを舞台にサマー・キャンプを実施します。

記

1. 期 間:2001年7月20日～8月16日(28日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負担金:70万円
4. 〆切り:12月末日
5. 資料請求先:
H A J事務局



玉珠峰 (6,179m)

青海省の省都である西寧から西へ約1,000キロ。山中には1週間滞在の予定です。

H A Jでは1993、94年と2度登頂しています。最近では中国の登山愛好者たちにも人気です。

B Cは5,000mと高い場所に設置されますので初期順応に配慮して実施します。

H A Jの登山隊は全てガイド登山ではありません。自己責任を認識して登山隊を構成します。

記

1. 期 間:2001年7月20日～8月13日(24日間)
2. 募集人員:10名程度
3. 負担金:65万円
4. 〆切り:定員になり次第
5. 資料請求先:H A J事務局

■ スパンティーク、ニンチン・カンサはP14を参照。

表紙写真

南チベットの今年の夏は雨が多かった。秋に入りクーラ・カンリ登山が始まると少しはましになった。そんなある日、晴れ間をぬって峠を越えて行くとなりに見事なヒマラヤの景観を飛び込んで来た。秋枯れの高原の向こうには真っ白な未踏の山々が聳え立っていた。

(文・写真:山森欣一)

ヒマラヤ No.349

1. 追悼 好漢 須藤建志君の死を追む
2. 中国の登山家たち -中国岳人トータル獲得標高2000- 山森 欣一
9. H A J 華甲望年会開催について
10. ヒマラヤ・デジタル通信 5
11. ヒマラヤ・ニュース <地域ニュース・トピックス・計報・インフォメーション・Books>
15. 中国登山の手引き(2)
24. 寸感・事務局日誌

追悼

好漢 須藤建志君の死を悼む

9月8日ラサに戻って来た私は、パキスタンのスパンティック登山を終えて、カトマンズから空路ラサ入りした岩崎洋から意外なことを聞いた。

梱包の合間に岩崎が「須藤さんがラカポシで遭難したようですよ」と言う。「何！原因は何だ」「落石らしいですよ」。梱包作業をしながら私は衝撃を隠せなかった。

須藤君と真剣に話し合ったのは一度だけである。1990年秋、田部井淳子さんの呼び掛けに山岳4団体が応じて山岳環境保護運動団体の「HAT-J」が旗揚げした。私はその運動に共鳴し、啓蒙用のパンフレットを作るために、ヒマラヤ登山に造詣の深い岳人10名に集まってもらいヒマラヤ登山のゴミ問題について一日徹底的に議論を交わした。そのメンバーに須藤君をノミネートし、彼も出席してくれた。

しかし、彼はHAT-Jの活動には批判的で、時々会う機会があると例を挙げて批判した。それでも彼が類希な倫理観を持ったアルピニストと信じていた私は「東で俺が頑張るから、西は君が頑張ってくれ！」と言いつけたのだった。

彼がミニヤ・コンカにアルパイン・スタイルで挑戦し敗退した年、登山調査用紙を依頼したところ、登山界とテイクイン、テイクアウトについて思いの一部を書き綴ってきた。その一部を紹介し、アルピニスト須藤建志君の追悼とする。

[北西稜はやはり風に追いかえされました。但しじっくりねらえばアルパイン・スタイルの手ごたえは十分です。南西稜はルートのかみ所がありません。数少ない未登のルートなのでアルパイン・スタイルに近い登り方でやれる実力者に登ってほしいです。今さら私がFIXベタ張りにして初登攀ですと有頂天になりたくありません。

ヒマラヤ登山もそろそろ倫理の確立をしないと若い新たなスターは生まれて来ないと思います。安全性という言葉でごまかすやり方では、技術をみがいてヒマラヤに向かう人はどんどん少なくなるでしょう。フリークライミングの極限もビック



ウォールもヨーロッパの冬壁もこなせる若者が新たな困難に向かうようなヒマラヤ登山が生まれてくるような土壌が生まれてくる様な（現在の日本でも少数はいますが）倫理性の確立や、記録の現しかたが必要ではないかと思えます。「岩と雪」の復活を望みます。

フリークライミングの方がフェアで目的意識がはっきりして理解しやすいです。このままでは売名行為の野？君と技術と体力をお金でおぎなう年寄りと、その予備軍的若年寄りばかりの世界になってしまうでしょう。

今年のK2に岳人クラブから2名参加しましたが、やはりあのやり方では満足感はなかったと言っています。（まあわかりきっていたことですが）

ヒマラヤの倫理観がテイクイン・テイクアウトだけではやりきれません。テイクイン・テイクアウトの実情はどうなんですか。私は、今だにこの欄があってそれに記入しなければならないことになさけなさを感じます。今後は明らかに故意にゴミ、装備、食料を放置する様な隊は、山岳雑誌を通してでも告発するべきです。新聞もこの手の話だと飛びつくと思いますよ。実名でやられればはやく外も歩けないだろうし、これから行く人も気をつけると思います。いづれにしてもなさけない話です]

（山森 欣一）

中国の登山家たち

山森 欣一

中国で高峰登山が始まったのは、1955年のことであった。当初は旧ソ連の指導を受けた。グルジアに派遣されたのは、許競、師秀、周正、楊徳源の4人で、8月14日団結峰(6,673m)、15日オクチャブル峰(6,780m)に4人共登頂した。翌56年には旧ソ連と合同でムスターグ・アタの初登頂に成功した。隊長を勤めたのは史占春である。許競、陳栄昌、国徳存、彭仲穆、師秀など12名が登頂した。陳と彭は余勢をかって、ソ連クライマーとそのままコングール・チュビエに向かい、アルパイン・スタイルで初登頂してしまった。更に57年には、ミニヤ・コンカに史、劉連満、劉大義、師、彭、国の6名が登頂する。しかし下山中に後者の3人が滑落死亡してしまった。おまけに初登頂したアメリカ隊から頂上付近の描写が違くと、クレー

ムまでつけられてしまった。いよいよ60年チョモランマ第二登である。経緯はご承知のとおり。この頃登山運動に参加していたメンバーが第一世代といえる。

64年には最後の8000m峰シシャバンマに陳三、成天亮ら10名が初登頂した。文革中の75年にはチョモランマの再登を行い、羅則、桑珠、潘多ら9人が登頂。77年ソ連との国境にあるトムールに27人も登頂した。曾曙生、[桂桑、樊永寧(女性)]らがあり、これらのメンバーが第二世代であろう。多くは今年定年を迎える。

80年以降は、合同登山が盛んになり、若い職業登山家が育ち、94年からチベット隊による8000m峰14座登頂計画が始まり新しい時代が訪れている。その活動振りをまとめると下記のようなになる。

中国岳人トータル獲得標高2000

(7000m以上の峰。2000年10月25日現在)

(注) # = 初登頂、★ = 縦断、● = 初登攀、氏名の前の× = 死亡。

成天亮 / 山森欣一調べ

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
1	次仁多吉 [ツェリン・ドルジェ] Tserin Dorji Cirenduoji 南木林県出身 136,742m 8000m峰・10座12回 7000m峰・4座5回 初登頂・7000m 3座	1958, 5, 18	ナイプン	7,043	1983, 4, 21 #	
			1960, 8	ナイプン	7,043	1984, 4, 11
			ナムナニ	7,694	1985, 5, 26	
			チャンツェ	7,543	1986, 5, 10	
			チョモランマ	8,848	1988, 5, 5	I
			シシャバンマM	8,027	1991, 5, 14	II
			ナムチャ・バルワ	7,782	1992, 10, 30 #	
			アンナプルナ I	8,091	1993, 4, 26	III
			ダウラギリ I	8,167	1993, 5, 30	IV
			シシャバンマM	8,027	1994, 5, 7	V
			チョー・オユー	8,201	1994, 9, 30	VI
			ガッシャーブルム II	8,035	1995, 7, 10	VII
			マナスル	8,163	1996, 5, 4*	VIII
			ナンガ・パルバット	8,126	1997, 6, 15	IX
	カンチェンジュンガM	8,586	1998, 5, 4	X		
	ローツェ	8,516	1998, 10, 13	XI		
	チョモランマ	8,848	1999, 5, 27	XII		

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
2	加 布 [ジャブー] Jiabu 南木林県出身 112,753m 8000m峰・8座10回 7000m峰・4座 初登頂・7000m峰4座	1958, 9, 18 1961, 10, 5 1959, 4,	シシャバンマM ナイプン ナムナニ ニンチン・カンサ チョモランマ ナムチャ・バルワ ダウラギリ I シシャバンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II マナスル ナンガ・パルバット カンチェンジュンガM チョモランマ	8,027 7,043 7,694 7,206 8,848 7,782 8,167 8,027 8,201 8,035 8,163 8,126 8,586 8,848	1981, 4, 30 1983, 4, 21 # 1985, 5, 26 # 1986, 4, 28 # 1990, 5, 7 1992, 10, 30 # 1993, 5, 31 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 11 1996, 5, 4 1997, 6, 15 1998, 5, 4 1999, 5, 27	 I II III IV V VI VII VIII IX
3	仁 那 [レンナ] Renna 謝通門県出身 99,151m 8000m峰・10座11回 7000m峰・1座	1965, 10, 1967, 8,	チャンツェ チョモランマ アンナプルナ I ダウラギリ I シシャバンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II マナスル ナンガ・パルバット カンチェンジュンガM ローツェ チョモランマ	7,543 8,848 8,091 8,167 8,027 8,021 8,035 8,163 8,126 8,586 8,516 8,848	1986, 5, 10 1990, 5, 8 1993, 4, 26 1993, 5, 31 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 11 1996, 5, 4 1997, 6, 15 1998, 5, 4 1998, 10, 13 1999, 5, 27	 I II III IV V VI VII VIII IX X XI
4	辺巴扎西 [ベンバ・ザシ] Bianba Zhaxi 拉孜県出身 97,748m 8000m峰・10座 7000m峰・2座 初登頂・7000m峰2座	1965, 10, 1965, 3, 20	ニンチン・カンサ ナムチャ・バルワ アンナプルナ I ダウラギリ I シシャバンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II マナスル ナンガ・パルバット カンチェンジュンガM ローツェ チョモランマ	7,206 7,782 8,091 8,167 8,027 8,201 8,035 8,163 8,126 8,586 8,516 8,848	1986, 4, 28 # 1992, 10, 30 # 1993, 4, 26 1993, 5, 30 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 10 1996, 5, 4 1997, 6, 15 1998, 5, 4 1998, 10, 13 1999, 5, 27	 I II III IV V VI VII VIII IX X
5	達 穷 [ダチオン] Daqiong 謝通門県出身 97,361m 8000m峰・9座 7000m峰・3座 初登頂・7000m峰2座	1963, 1, 1962, 12,	チャンツェ ラブチェ・カン チョモランマ ナムチャ・バルワ ダウラギリ I シシャバンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II	7,543 7,367 8,848 7,782 8,167 8,027 8,201 8,035	1986, 5, 11 1987, 10, 26 # 1990, 5, 8 1992, 10, 30 # 1993, 5, 30 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 11	 I II III IV V

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
			マナスル	8,163	1996, 5, 4	VI
			ナンガ・バルバット	8,126	1997, 6, 15	VII
			カンチェンジュンガM	8,586	1998, 5, 4	VIII
			ローツェ	8,516	1998,10,13	IX
6	洛 則 [ロツェ] Louze 拉孜県出身 91,060m 8000m峰・9座10回 7000m峰・1座	1962, 5, 13 1964, 1963,	チャンツェ チョモランマ ダウラギリ I シシャパンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II マナスル ナンガ・バルバット カンチェンジュンガM ローツェ チョモランマ	7,543 8,848 8,167 8,027 8,201 8,035 8,163 8,126 8,586 8,516 8,848	1986, 5, 11 1990, 5, 8 1993, 5, 31 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 10 1996, 5, 4 1997, 6, 15 1998, 5, 4 1998,10,13 1999, 5, 27	 I II III IV V VI VII VIII IX X
7	阿克布 [アカプー] Akepu 昌都県出身 81,611m 8000m峰・9座 7000m峰・1座	1962,12,	ラブチェ・カン アンナプルナ I ダウラギリ I シシャパンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II マナスル ナンガ・バルバット カンチェンジュンガM チョモランマ	7,367 8,091 8,167 8,027 8,201 8,035 8,163 8,126 8,586 8,848	1986,10,27 1993, 4, 26 1993, 5, 30 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 11 1996, 5, 4 1997, 6, 15 1998, 5, 4 1999, 5, 27	 I II III IV V VI VII VIII IX
8	旺 加 [ワンジャ] Wangjia 拉孜県出身 72,552m 8000m峰・6座7回 7000m峰・2座 初登頂・7000m峰1座	1957, 5, 15 18	チャー・オユー チャンツェ ラブチェ・カン チョモランマ ダウラギリ I シシャパンマM チャー・オユー ガッシャーブルム II マナスル	8,201 7,543 7,367 8,848 8,167 8,027 8,201 8,035 8,163	1985, 5, 1 1986, 5, 10 1987,10,24# 1990, 5, 10 1993, 5, 31 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1995, 7, 11 1996, 5, 4	 I II III IV V VI VII
9	大 斉 米 [ダー・チーミ] Da Qimi 南木林県出身 72,436m 8000m峰・4座5回 7000m峰・4座 初登頂・7000m峰2座	1957, 6, 5 1957, 7, 5	ナムナニ チャンツェ チョモランマ ナムチャ・バルワ ダウラギリ I シシャパンマM チャー・オユー チョモランマ チョモラーリ	7,694 7,543 8,848 7,782 8,167 8,027 8,201 8,848 7,326	1985, 5, 28 1986, 5, 10 1990, 5, 7 1992,10,30# 1993, 5, 31 1994, 5, 7 1994, 9, 30 1994, 5, 29 1996, 9, 8 ●	 I II III IV V
10	桂 桑 [グイサン] (女性) Guisan 南木林県出身	1957, 1955,	トムール チャンツェ	7,435 7,543	1977, 7, 30 1986, 5, 10	

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
	48,027m 8000m峰・2座3回 7000m峰・3座		チョモランマ シシャパンマM チョモラーリ チョモランマ	8,848 8,027 7,326 8,848	1990, 5, 8 1994, 4, 29 1996, 9, 10 1999, 5, 27	I II III
11	仁青平措 [リンチン・ピンゾー] Renqing Pingcuo 隆子県出身 46,705m 8000m峰・3座 7000m峰・2座3回 チョモランマ初縦断 (南面→北面)	1943, 8, 2 1943, 6, 20	シシャパンマM ナイプン ナイプン チャー・オユー チャンツェ チョモランマ	8,027 7,043 7,043 8,201 7,543 8,848	1981, 4, 30 1983, 4, 21 # 1984, 4, 11 1985, 5, 1 1986, 5, 10 1988, 5, 5 ★	I II III
12	小 齊 米 [シャオ・チーミ] Xiao Qimi 南木林県出身 40,573m 8000m峰・2座3回 7000m峰・2座	1964, 7,	チャンツェ シシャパンマC チョモランマ チョモラーリ チョモランマ	7,543 8,008 8,848 7,326 8,848	1986, 5, 10 1990, 5, 19 1993, 5, 5 1996, 9, 10 1997, 5, 29	I II III
13	普 布 [プブ] Pubu 南木林県出身 38,755m 8000m峰・2座 7000m峰・3座	1964, 7, 1965,	ニンチン・カンサ ラブチェ・カン シシャパンマC チョモランマ チョモラーリ	7,206 7,367 8,008 8,848 7,326	1986, 4, 28 # 1987, 10, 27 1990, 5, 19 1993, 5, 5 1996, 9, 10	I II
14	丹真多吉 [ダンチェン・ドルジェ] Danzhen Duorjee 南木林県出身 38,624m 8000m峰・2座 7000m峰・3座4回 初登頂・7000m峰2座	1963, 3, 16	ナイプン チャー・オユー ニンチン・カンサ チョモラーリ チョモランマ	7,043 8,201 7,206 7,326 8,848	1983, 4, 21 # 1985, 5, 1 1986, 4, 28 # 1996, 9, 8 ● 1997, 5, 29	I II
15	大 次 仁 [ダー・ツェリン] Da Tsering 謝通門県出身 31,635m チョモランマ初縦断 (南面→北面)	1953,	ナイプン チャー・オユー チャンツェ チョモランマ	7,043 8,204 7,543 8,848	1984, 4, 11 1985, 5, 1 1986, 5, 11 1988, 5, 5	I II
16	王 富 州 [ワン・フウチュウ] Wang Fuzhou 31,555m チョモランマ第二登	1935, 2, 23	レーニン ムスターグ・アタ チョモランマ シシャパンマM	7,134 7,546 8,848 8,027	1958, 9, 7 1959, 7, 7 1960, 5, 25 ● 1964, 5, 2 #	I II
17	桑 珠 [サンジュ] Samdrub 日喀則出身 31,271m	1953, 11, 15 1953, 1, 25	チョモランマ トムール ニンチン・カンサ ナムチャ・バルワ	8,848 7,435 7,206 7,782	1975, 5, 27 1977, 7, 30 1986, 4, 28 # 1992, 10, 30 #	
18	拉 巴 [ラバ] Laba 南木林県出身 30,806m	1964, 8, 5	チャンツェ ラブチェ・カン チョム・カンリ チョモランマ	7,543 7,367 7,048 8,848	1986, 5, 10 1987, 10, 27 1996, 10, 7 # 1999, 5, 27	

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
19	劉大義 [リュウ・ダユイ] Liu Dayi 30,083m	1936,	ムスターグ・アタ ミニヤ・コンカ ムスターグ・アタ トムール	7,546 7,556 7,546 7,435	1956, 7, 31 # 1957, 6, 13 1959, 7, 7 1977, 7, 25 ●	
20	陳榮昌 [チェン・ロンチャン] Chen Rongchang 30,057m		ムスターグ・アタ cong-gul・チュビエ ムスターグ・アタ トムール	7,546 7,530 7,546 7,435	1956, 7, 31 # 1956, 8, 15 # 1959, 7, 7 1977, 7, 30	
21	潘多 [パンドゥ] (女性) Phantog 徳格県出身 23,924m	1939, 1938,	ムスターグ・アタ cong-gul・チュビエ チョモランマ	7,546 7,530 8,848	1959, 7, 7 1961, 6, 17 1970, 5, 27	
22	屈銀華 [チュ・インホァ] Chu Yinhua 23,528m	1935,	レーニン ムスターグ・アタ チョモランマ	7,134 7,546 8,848	1958, 9, 7 1959, 7, 7 1960, 5, 25 ●	
23	王勇峰 [ワン・ヨンフェン] Wang Yongfeng 内モンゴル自治区集寧市出身 23,439m	1963,12,23	チャンツェ チョモランマ チョム・カンリ	7,543 8,848 7,048	1989, 7, 24 1993, 5, 5 1996,10, 7 #	
24	小加措 [シャオ・ジャツォ] Xiao Jiacao 南木林県出身 23,380m	1961, 6, 1958,	ニンチン・カンサ チョモランマ チョモラーリ	7,206 8,848 7,326	1986, 4, 28 # 1993, 5, 5 1996, 9, 10	
25	許競 [シー・ジュン] Xu Jing 23,119m	1927,10, 7	ムスターグ・アタ ムスターグ・アタ シジャパンマM	7,546 7,546 8,027	1956, 7, 31 # 1959, 7, 7 1964, 5, 2 #	
26	扎西次仁 [ザシ・ツェリン] Zaxi Ciring 謝通門県出身 23,097m	1959,	チャンツェ チョム・カンリ チョモランマ	7,543 7,048 8,848	1986, 5, 11 1996,10, 7 # 1999, 5, 27	
27	小多布傑 [シャオ・ドブジェ] xiao Duobujie 謝通門県出身 23,070m	1962,11,	チャー・オユー チャンツェ チョモラーリ	8,201 7,543 7,326	1985, 5, 1 1986, 5, 11 1996, 9, 10	
28	陳三 [チェン・サン] Chen San 22,676m	1935,	レーニン cong-gul・チュビエ シジャパンマM	7,134 7,530 8,027	1958, 9, 7 1961, 6, 17 1964, 5, 2 #	
29	史占春 [シー・チャンチュン] Shi Zhanchun 遼寧省出身 22,648m	1928, 1, 12	ムスターグ・アタ ミニヤ・コンカ ムスターグ・アタ	7,546 7,556 7,546	1956, 7, 31 # 1957, 6, 13 1959, 7, 7	
30	×彭仲穆 [ペン・チョンム] Peng Zhongmu 22,632		ムスターグ・アタ cong-gul・チュビエ ミニヤ・コンカ	7,546 7,530 7,556	1956, 7, 31 # 1956, 8, 16 # 1957, 6, 13	
31	金俊喜 [ジン・ジュンシ] Jin Junxi 吉林省出身 22,455m	1954,12, 8	トムール ナムナニ チョム・カンリ	7,435 7,694 7,326	1977, 7, 30 1985, 5, 26 # 1996,10, 7 #	
32	辺巴次仁 [ペンバ・ツェリン] Penba Tsering 22,842	1935,	トムール チャー・オユー ニンチン・カンサ	7,435 8,201 7,206	1977, 7, 25 # 1985, 5, 1 1986, 4, 28 #	

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
33	格桑 [ガーサン] Gaisang 謝通門県出身 22,450m	1959, 3, 11	ナイブン チャー・オユー ニンチン・カンサ	7,043 8,201 7,206	1983, 4, 21 # 1985, 5, 1 1986, 4, 28 #	
34	加拉 [ジャラ] Jiala 拉孜県出身 22,236m	1962, 12, 8	チャンツェ ラブチェ・カン チョモラーリ	7,543 7,367 7,326	1986, 5, 11 1987, 10, 26 # 1996, 9, 10	
35	×宋志義 [ソン・チュイ] Son Zhiyi 甘肅省武威県出身 22,172m	1951, 1, 2	トムール ナイブン ナムナニ	7,435 7,043 7,694	1977, 7, 30 1983, 4, 21 # 1985, 5, 26 #	
36	貢布 [ゴンブー] Gonbu 聶拉木県出身 16,395m	1933, 3, 20	ムスターグ・アタ チョモランマ	7,546 8,848	1959, 7, 7 1960, 5, 25 ●	
37	貢嘎巴桑 [クンガ・バサン] Kunga Pasang 昌都県出身 16,283m		チョモランマ トムール	8,848 7,435	1975, 5, 27 1977, 7, 25 ●	
38	吉吉 [ジジ] (女性) Jiji 16,174m		チョモラーリ チョモランマ	7,326 8,848	1996, 9, 10 1999, 5, 27	
39	大多布吉 [ダー・ドブジェ] Da Duobuji 15,636m		トムール チャー・オユー	7,435 8,201	1977, 7, 25 ● 1985, 5, 1	
40	張俊岩 [チャン・ジュンヤン] Zhang Junyan 15,573m		ムスターグ・アタ シシャパンマM	7,546 8,027	1959, 7, 7 1964, 5, 2 #	
41	多吉 [ドルジェ] Dorje		張俊岩と全く同じ			
42	索南多吉 [ソナム・ドルジェ] Sodnam Dorje		張俊岩と全く同じ			
43	×鄔宗岳 [ウ・チョンユエ] Wu Zongyue 15,557m	1933,	コンゲール・チュビエ シシャパンマM	7,530 8,027	1961, 6, 17 1964, 5, 2 #	
44	拉旺 [ラワン] Lawang 15,407m	1943,	チャー・オユー ニンチン・カンサ	8,201 7,206	1985, 5, 1 1986, 4, 28 #	
45	拉吉 [ラジ] (女性) Laji 大次仁の娘 15,394m		ラブチェ・カン シシャパンマM	7,367 8,027	1987, 10, 26 # 1994, 4, 29	
46	佟璐 [トンルー] (女性) Duon Lu 15,375m	1962, 9, 20	ラブチェ・カン シシャパンマC	7,367 8,008	1987, 10, 27 1990, 5, 9	
47	楊久輝 [ヤン・ジュフイ] Yang Jiuhui 15,129m	1952, 7, 8	トムール ナムナニ	7,435 7,694	1977, 7, 30 1985, 5, 28	
48	劉連満 [リュウ・レンマン] 15,102m		ムスターグ・アタ ミニヤ・コンカ	7,546 7,556	1956, 7, 31 # 1957, 6, 13	
49	×師秀 [シ・シュウ] Shi Xiu		劉連満と全く同じ			
50	×国徳存 [ゴウ・デチュン] Guo Decun		劉連満と全く同じ			
51	×拉巴才仁 [ラバツァイレン] 15,076m		ムスターグ・アタ コンゲール・チュビエ	7,546 7,530	1959, 7, 7 1961, 6, 17	
52	×西僥 [シェーラブ] (女性) Sheirab		拉巴才仁と全く同じ			

	氏名	生年月日	山名	標高	登頂年月日	備考
53	嘎 亜 [ガヤ] Gaya 八宿県出身 14,869m	1949, 5	チャンツェ チョモラーリ	7,543 7,326	1986, 5, 11 1996, 9, 10	
54	羅 申 [ルーシン] Lu Shin 14,869m		チャンツェ チョモラーリ	7,543 7,326	1986, 5, 11 1996, 9, 8 ●	
55	彭 淑 力 [ベン・シュリー] Peng Shuli 14,680m		ムスターグ・アタ レーニン	7,546 7,134	1956, 7, 31 # 1958, 9, 7	
56	石 竟 [ダン・ジン] 14,680m	1927,	レーニン ムスターグ・アタ	7,134 7,546	1958, 9, 7 1959, 7, 7	
57	棟 梁 [ヤン・ドンリャン] Yan Dongliang	1932,	石竟と全く同じ			
58	穆 炳 鎖 [ム・ピンシュ] Mu Bingsuo	1933,	石竟と全く同じ			
59	胡 沐 欽 [フー・ムチン]	1935,	石竟と全く同じ			
60	旺 多 [ワンドゥ] Wandu 謝通門県出身 14,249m	1957, 4, 20	ナイプン ニンチン・カンサ	7,043 7,206	1983, 4, 21 # 1986, 4, 28 #	

その他の登山家たち（1峰登頂者）[女性]

1956, 7, 31 ムスターグ・アタ (7,546m)

胡本銘、陳徳寓、翁慶章

1958, 9, 7 レーニン (7,134m)

王鳳桐、王家奎、鄭嘉善、余和、楊永忠、岳彩文、張景金、格朗、雷耀米

1959, 7, 7 ムスターグ・アタ (7,546m)

王振華、張祥、佳之久、趙国光、×邵子慶、岳保挂、周信徳、×衡虎林、謝武成、大米馬、[周玉瑛、王義勤、丛珍、查姆金、芥米]

1964, 5, 2 シシャパンマ (8,027m)

成天亮、×米馬、扎西、雲登、

1975, 5, 27 チョモランマ (8,848m)

索南羅布、羅則、侯生福、大平措、阿布欽、次仁多吉

1977, 7, 25 トムール (7,435m)

×王洪宝、達穿、羅桑徳慶、多布吉、陸家勝、史学増、[昌措、王珍]

1977, 7, 30 トムール (7,435m)

多吉甫、買買堤齊拉、曾曙生、晋美、張希桂、洛桑、[樊永寧、徐新、扎西]

1985, 5, 28 ナムナニ (7,694m)

陳建軍、曹安、包徳卿、

1986, 4, 28 ニンチン・カンサ (7,206m)

旦増、小次仁、

1986, 5, 11 チャンツェ (7,543m)

開村、

1988, 5, 5 チョモランマ (8,848m)

李致新、

1989, 7, 24 チャンツェ (7,543m)

×孫維奇、

1944, 5, 2 シシャパンマM (8,027m)

[普布卓嘎]

1996, 10, 7 チョム・カンリ (7,048m)

馬欣祥、張志堅、

1998, 5, 24 チョモランマ (8,848m)

次仁、

HAJ華甲望年会開催について

理事長 山森 欣一

本会も創立30年を過ぎました。当面の問題には、会員増による財政の正常化、世代交代などがありますが、21世紀を望見すると、登山を取り巻く状況の変化（高所登山の遠足化など）による登山文化の継承も気になるところであります。それにも増して重要なことは、登山の実践であります。実践なくしては、情報の伝達も事故防止や環境保護の啓蒙もできません。その意味では、この数年来毎年2～3隊の登山隊を派遣し、それを受けて、インド・ヒマラヤ会議、中国登山研究会、高所登山事故と環境対策研修会が開催され、情報の伝達と啓蒙活動を行うことができていることは、会員の皆様の支援の賜物であります。

30年の歴史を重ねる内に、役員、会員にもそれぞれ相当の年輪を重ね、所謂、還暦等人生の節目を迎える方が続出する事態となっています。この傾向は今後増えることはあっても減ることの無い必然であります。

HAJでは、毎夏のサマーキャンプ登山隊を中

心として、7月に合同壮行会を開催し、会の内外から参加戴いて計画の発表を行い、あわせて交流の場を提供しています。しかし、報告の場を設けるのはなかなか難しくHAJ東京集会で細々と行っているのが現状でありました。

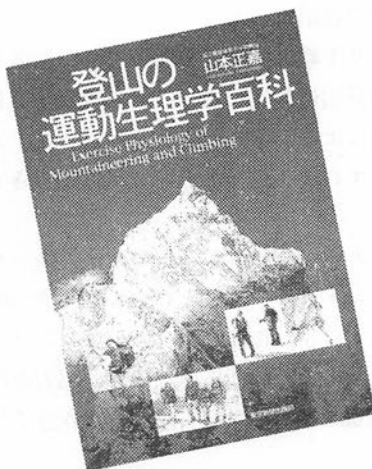
そこで、昨年からの会の内外の参加を得て、その年に派遣した登山報告を行い、席上その年の還暦を迎えた方のお祝いを行ったところ幸いにも好評でありましたので、本年も下記のように実施致します。参加ご希望の方は事務局へご連絡下さい。

1. 名称 HAJ華甲望年会
2. 日時：12月9日（土）18～20時
3. 場所：東京 かんぽヘルスプラザ東京
4. 会費：8千円
5. 内容
 - 1) 登山隊報告 スパンティック／ターラ・リ／クーラ・カンリ
 - 2) 還暦者のお祝い

「身体の仕組みを知って、安全登山を!!」

登山の運動生理学百科

山本正嘉 著（国立鹿屋体育大学助教授）



「登山で疲れる原因は何か」「中高年や女性登山者でも快適に登るためには?」「適切なトレーニングABC」「あなたにもできる高所登山」など登山全般を網羅。初級者からベテランまで幅広い登山者を対象に、登山と健康、疲労、中高年者・女性の山歩き、トレーニング法を詳述。クライミング、高所登山も科学的データをもとに解説。著者は、ヒマラヤをはじめとする高所登山家であると同時に、スポーツ生理学の専門家。

●A5判・並製 ●価格：本体2000円＋税

東京新聞出版局(中日新聞 東京本社) 〒108-8010 東京都港区港南2-3-13 ☎03-3740-2674(直) FAX03-3458-0689

エベレスト頂上からスキー滑降！

10月7日スロヴェニア隊のダヴォ・カルニチャル(38)はエベレストの頂上からBCまで、スキーでの完全滑降に成功した。

前日の夜10時30分頃にフランク・オダーラップ(42)とシェルパ2人と共にサウス・コルを出発し、翌朝7時に登頂。8時に頂上を出発、5時間かけて5,340mのBCまで滑り降りた。これまで南峰から滑り降りた記録はあったが、ヒラリーステップをスキーで降りたのは初めて。また、北面は、1997年にH・カマーランダーが頂上からスキーで滑り降りたが、雪の少ない場所岩場では板を外して降りている。したがってエベレストを頂上からBCまでスキーで滑り降りたのは初めての記録となる。ダヴォによれば、最も難しかったのはヒラリーステップではなく、南峰につづく急峻な場所での雪崩の危険であったという。

この模様はインターネットを通じてリアルタイムで世界に紹介された。彼等のホームページ(HP)にはヒラリー・ステップを登る姿、登頂、そして頂上から滑り降りる模様を、ビデオ映像で紹介している(撮影は同行したシェルパが担当)。サウス・コルからはダヴォがカメラを身体につけてスキー滑降中に撮影した映像を紹介している。同隊からは9日にも3名の登頂者を出している。

(<http://www.everest.simobil.si>)

また以前に紹介したHPエベレスト・ニュースからも彼等のHPへ行ける。尚、ビデオを見るためにはその為のソフトが必要。

尚、ダヴォ・カルニチャルは1995年春にアンナプルナI峰(8,091m)頂上からBCまでのスキー滑降にも成功している。

韓国隊エベレスト・ローツェに登頂！

今秋のネパールでは韓国隊が多数登山を行っている。98、99年と秋のエベレストは登頂者を出さなかったが、今秋の頂上一番のりは韓国隊だった。10月4日に韓国隊の2隊が5名(シェルパの数は不明)を頂上に送った。中国側から挑んだ韓国隊は強風の為に第二ステップで登頂を断念している。

秋の最高峰は南側3隊、北側1隊の4隊だけが登山を行った模様。春の賑わいをよそに、秋は昔の静けさを取り戻している。

尚、韓国隊はローツェにも2隊が入山、合計5名の登頂者を出している。

バク・ヨンソク、シシャパンマ主峰登頂

夏にブロード・ピークを登ったバクは、秋に4度目のシシャパンマにやって来た。過去2度の登頂は何れも中央峰(8,008m)であった。今回13名からなる隊の隊長として南西壁にルートをとった(ルートの詳細は不明)。

韓国隊は固定キャンプを2つ設け、ロープを1,200m張り、アタックには雪洞(7,700m)をつかって10月1日に隊員2名とシェルパ1名が主峰に登頂した。シェルパのジャンプーは夏にウム・ホンギルと共にK2の頂上に立っている。

バクはこれで14座登頂まであとK2(8,611m)を残すのみとなり、アジア人初のこのタイトルに大手をかけた。

ア ク シ デ ン ト

ローツェの南壁に挑んでいたロシア隊の隊員のウラジミール・ボンダレフがC2付近(約6,400m)で9月17日に雪崩に遭い行方不明となった。その後ザックと上着は見つかったが、捜索を断念、登山隊は活動を中止した。同隊の真の目的はローツェ中央峰の登頂だった。

ダウラギリI峰に挑んでいた韓国隊の36歳の隊員が9月29日頃に雪崩で死亡。その後10月2日にやはり雪崩によりシェルパ1名が死亡した。二つの事故はいずれもルート下部C2付近でおきている。

チャー・オユーではガイド隊のユーゴスラビア人クライアント、バブレ・ミロシェビッチ(50)が悪天の為にC3(7,500m)で2泊してから下山中に苦しみだし、付近にいた他隊の協力を得てABC(5,700m)に収容し、医師が手当てしたが死亡した。

地域ニュース

《ネパール》

ネパールの人口 2290万人

7月11日の「世界人口デー」に合わせて、人口環境省が発表したネパールの人口は、2293万1878人。年間の人口増加率は、2.37%でこのままいくと30年後には倍増。100年後には1億人に達すると予想されている。ネパールの人口は50年前には約820万人で今日までの半世紀間の増加率は179.26%ちなみに今世紀初めの人口は約550万人だった。(日ネ会報2000年9月号より)

《パキスタン》

気球でヒマラヤ越え

埼玉県内の熱気球愛好家2人が10月14日、パキスタン北東部、ヒマラヤ山系西端のナンガ・パルバット(8,126m)を熱気球で越える冒険飛行に成功した。熱気球による八千メートル級の山越えは日本人初、世界でも1991年にイギリスチームがエヴェレスト(8,848m)を越えて以来2例目の快挙だ。

2人は、中重量級熱気球の長距離、滞空時間の世界記録を持つ同県川島町の神田道夫さん(50)と、同じく滞空時間世界記録保持者の所沢市在住、竹沢広介さん(38)。2人の乗った熱気球は「マンボウ号」(全高24m、最大直径20m)は、14日現地時間午前7時7分、パキスタンのチーラスを離陸し、高度約9千メートルを飛行。ナンガ・パルバット頂上のやや南側を通過し、同10時15分頃、出発地から約100km離れたインド国境に近いデオサイ高原のパキスタン軍基地内に無事着陸した。

2人は98年、中国とパキスタン国境のK2越えに挑戦したが風に恵まれず失敗。今回はK2越えの許可が中国政府から下



りず、ナンガ・パルバットに目標を切り換えた。

《インド》

インド領カラコルム登山概要

年	山名	標高	数	国名
1946	ルックアウト・ピーク	6252	2 1	イギリス
1956	サカン・ピーク	6943	8 3	N.D.Jayal
1970	サセール・カンリIV	7310	12 0	H.V.Bahugna
1973	サセール・カンリI	7672	15 13	J.Singh
1979	サセール・カンリI	7672	13 5	J.Singh
1980	アブサラサス	7245	? 15	K.N.Tadani
1981	サルトロ・カンリ	7742	54 4	N.Kumar
"	シア・カンリ	7422	? 5	同上
1984	マモストーン・カンリ	7526	13 11	日印合同
"	リモII	7373	25 2	K.S.Suche
1985	サセール・カンリIIW	7518	18 4	H.Shigh
"	リモI	7385	10 0	H.Kapadia
1986	サセール・カンリI	7672	13 0	仏印合同
"	サセール・カンリIII	7495	26 12	S.P.Chamori
"	シア・カンリ	7422	14 7	米印合同
"	リモI	7385	12 0	豪印合同
1987	サセール・カンリI	7672	49 9	英印合同
1988	サセール・カンリI	7672	15 3	H.Lohia
"	マモストーン・カンリ	7526	13 13	A.Sethi
"	"	"	? 0	M.P.Yadav
"	リモI	7385	16 12	日印合同
"	アブサラサス	7245	30 6	P.Parkash
1989	マモストーン・カンリ	7526	16 6	M.P.Yadav
"	リモII	7373	12 2	英印合同
"	無名峰(アクタシGL)	6739	6 0	H.Kapadia
1990	サセール・カンリI	7672	26 15	台印合同
"	マモストーン・カンリ	7526	31 5	S.C.Negi
1991	サセール・カンリII	7518	21 2	H.Lohia
"	チョング・クムダンI	7071	12 4	英印合同
"	無名峰(サセール・ラ)	6335	? 4	独印合同
1992	マモストーン・カンリ	7526	19 10	B.Pal(女性隊)
"	テラム・カンリ	7465	? ?	M.S.Cil
1993	マモストーン・カンリII	7023	12 4	奥印合同
"	アク・タシ	7016	15 9	日印合同
1995	サセール・カンリI	7672	? ?	S.C.Negi
1996	マモストーン・カンリ	7526	? ?	R.Midha
"	チョング・クムダンII	7004	? ?	H.Kapadia
1998	ブジャン・ピーク	6560	6 6	H.Kapadia

《中国》

HAJ隊クーラ・カンリ断念

クーラ・カンリ I (7,538m) 北面新ルートからアルパイン・スタイルで挑戦していたHAJ隊(山森欣一隊長ら4名)は、6,750mで登頂を断念した。同隊は当初南面からの計画であったが、今夏南チベットを襲った大雨のため、県庁所在地のロザから先の道路が決壊。このため止むを得ず北面から南面氷河を経て南壁に挑戦を試みる予定であった。

登山隊は9月11日ラサから曲措に入り、ここにBCを建設。(民家内)14日北面5,300mにABCを出した。しかし以後悪天となり停滞。天候回復を待って19日5,900mにキャンプ。翌日6750mまで進んだが100mほど降りてキャンプ。21日前日の到達点からトラバース箇所で雪崩に遭遇。ここで登頂を断念したものの。

東海大学隊が合同でクーラ・カンリ縦走へ

東海大学山岳部は、来春、チベット大学と合同でクーラ・カンリ山群の縦走を目指すことになった。ルートは北面からⅡ峰(7,418m)を経て主峰まで縦走し、リターンするもの。又、別にⅢ峰の登頂も試みる予定。(ⅡとⅢは未踏峰)

同隊には学術班が同行し、世界最高所にある湖、プマヨンツォ(標高約5000m)の調査に当たる。

トピックス

第17回 ヒンドゥ・クシュ、カラコルム会議開催

10月14日～15日の両日にわたって東京、八王子で中断されていたHK Tが久し振りに開催された。会議は中断されていた間の登山報告(97年～99年)を中心に、インド、中国領カラコルム登山概要/ワハンへの素顔/カラコルム未登の7000mの山など盛り沢山な内容で全国から約70名が集まった。

HAT-J 10周年記念祝賀会開催

10月21日東京、代々木で日本ヒマラヤン・アド

ベンチャー・トラストの創立10周年記念式典と祝賀会が開催された。式典では田部井淳子代表の挨拶の後、当初創立を支援した山岳4団体(日山協、労山、JAC、HAJ)の代表からそれぞれ祝辞が述べられ、神崎忠男理事長が10年の歩みを紹介して式典を終えた。引き続き同所にて祝賀会が催され午前中の会議に出席した高校生らも交えて歌、福引などで和気合々とした中でお開きとなった。

討 報

A. ザヴァダ氏死去

ポーランドの登山家、アンジェイ・ザヴァダ氏が8月21日癌の為にワルシャワで亡くなった。1928年生まれというから、今年72歳になる。

ヨーロッパ・アルプスで十分な経験を積んできたポーランド人達は、1971年クンヤン・キッシュ(7,852m)の初登頂に成功する。困難なこの山の第2登は実に17年後になる。その後、73年のノジャックでは7千m峰での冬季登頂という、高峰登山に新たなジャンルを加え、74年のローツェ(8,250mまで)、80年2月のエベレスト冬季初登頂へと、ポーランドは「冬のヒマラヤ」をリードしつづけた。そして、その全ての隊で隊長を務めたのがザヴァダ氏である。

エベレスト後も88年のK2(8,611m)、1997・8年のナンガ・パルバット(8,126m)と冬季の登山隊を率いていた。

インフォメーション

(社) 日本山岳協会主催
第13回海外登山女性懇談会

日 時：平成12年12月14日(木) 午後6時30分
場 所：岸記念体育館(JR原宿駅下車徒歩7分)
会 費：1500円
内 容：『山をリードする女たち』と題してそれぞれの組織で活躍する女性リーダー3名(早稲田大学初の女性主将渡辺佳苗さん。衝立からグランドジョラス北壁、女性だけの山岳会鹿島の会をリードする名塚好子さん。今夏、隊を率いてインドの

未踏峰に初登頂した東京理科大OB加藤孝子さん。)をパネラーに海外登山の夢を語っていただきます。問合せ・申込み

東京都渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内

(社) 日本山岳協会

TEL: 03-3481-2396 FAX: 03-3481-2395

Books

「K2 嵐の夏」

「ザ・エンドレス・ノット」の邦訳がようやく出版された。本書はひとシーズンに13人もの遭難者をだした1986年の夏K2、「ブラック・サマー」と呼ばれた遭難から奇跡的な生還を果たした一人のオーストリア人による手記である。

そのひと、クルト・ディームベルガーは、ご存知のとおり、1957年にブロード・ピークをヘルマン・ブルー等と共に、「西部アルプス方式」で初登頂に成功した人物であり、プールがチョゴリザで遭難したときの生き証人である。ブロード・ピークから29年を経て「夢の頂」K2の登頂に成功するが、そのために支払った代償は、あまりにも大きかった。この本は全編を失われたものへの痛切な想いがにじみ出ている。

雪崩やクレバス転落などで次々と犠牲者が出る中、著者とジュリー・テュリスの2人は頂上へと出発する。韓国隊、イギリスのアラン・ラウス等(2名)が同じように頂きを目指す中、C4(8,000m)で先行していたオーストリア隊(3名)が、アタックをあきらめ、下りてきて同じテントに泊まりたいと言い出す。テント3張り、7人が精一杯のところ、この晩は10名が泊まることになる。翌日、酸素ボンベを持っていた韓国隊は頂上を目指す。他の7名は「死の地帯」で休養をとる。ところがこの晩、新ルートから登頂したポーランド隊2人と、登頂に成功した韓国隊の2名がこの「ホテル」に泊まりのくる。もちろん拒む事は出来ず、この晩は11名が宿泊した。

よく8月4日、前日休養した7名は登頂に成功するが、嵐につかまり、C4に5日間閉じ込められ、生還できたのはオーストリア隊のヴィリ・バ

ウワーと著者だけという結末となる。

登頂から生還にいたる記述は、高所の現実をまざまざと見せ付けてくれる。ディームベルガーも率直に当時の記憶を語っている。極限状態の中で、皆をリードし、思いやっていたA・ラウスの最期の姿が痛ましい。写真が減った上にモノクロになってしまったのが残念だが、素晴らしい本である。必読書です。(中川)

山と溪谷社刊行 2400円+税

日本の岳人たち

斎藤一男(前日本山岳協会会長)氏の著書。書齋の岳人/源流山と人/身近な岳人の3章から成る。第1章では小島烏水、武田久吉、田部重治、木暮理太郎、冠松次郎、中村清太郎、深田久弥、藤木九三、楨有恒をとり上げ終わりに「私の山岳文化」と題した含蓄のある一文がある。第2章では多摩川から石狩川まで27の河川を取り上げそれらの河川にまつわる人と事象にふれている。第3章では主に関東の岳界・岳人について筆をとった。内容が膨大である。「北の雷鳴」もそうであったが枝葉にふれてゆくとさらにその先が知りたくなる。著者は「あとがき」で「これを私の山の本の最後の作品にしたい」と記したが、それを信ずる人は誰一人いないだろう。(記:山森)

〒132-0035 江戸川区平井5-26-12 岩峰社

A5判 493頁 2500円(税込み)

■財政支援: 出口當2万円

東京集会のお知らせ

日時	11月27日(月)午後7時~
内容	クーラ・カンリ隊報告
場所	HAJルーム(地下鉄有楽町線東池袋下車4番出口から地上に出て右へ徒歩2分) 又は、JR大塚駅下車、都電荒川線の早稲田方面2つ目の東池袋4丁目下車、前方で右に折れて地下鉄出口から徒歩2分)

2001年H A J サマー・キャンプ隊員募集

カラコルム スパンティーク(7,027m)

パキスタンの登山は、スカルドへのフライトや、ポータートラブルなど、短期間登山にとっては、幾つかの問題がありますが、情報の収集や強力なスタッフの配置、隊員の積極的な参加によって対処して成功に結びつきたいと思います。

尚、パキスタン登山の申請は、年内に行わなければならないので、希望者は早目の申込みにご協力下さい。

記

1. 期間：2001年7月13日(金)～8月27日(月)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：75万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 申込〆切：11月30日(定員になり次第〆切)
6. その他：H A Jの登山隊は、「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿に参加の義務があります。

チベット ニンチン・カンサ(7,206m)

ラサから半日行程の所にヤムドク・ツォと呼ばれる大きくて美しい湖があります。その湖を見下ろすようにそびえているのが名峰ニンチン・カンサです。H A Jは既に2回登頂に成功しています。ラサからゆっくと入山し、登山期間は26日間、ルートは1998年にH A J隊が初登攀した西稜を予定しています。

記

1. 期間：2001年7月20日～8月25日(37日間)
2. 募集人員：10名程度
3. 負担金：85万円
4. 資格：冬山の尾根を20kg程度の荷物を持って行動できる人。
5. 〆切り：定員になり次第
6. その他：H A Jの登山隊は、「ガイド公募登山」ではありません。準備活動に参加、合宿に参加の義務があります。

H A J 販売図書

書名	価格	送料	備考
ヒマラヤ、そして仲間へ！	1500	310	1980年ケダルナート峰登山報告
ナンド・カート1981	2500	340	1981年登山・事故・捜索の記録
千人の悪魔の峰、マモストン・カンリ	1000	240	1984年日印合同隊初登頂の記録
NUN 7135	2000	240	1992年登山報告
“神の河”ブラマプトラの激流を下る	2500	240	1990-91 川下りの記録
天府の霊峰 雪宝頂	1500	240	1986年初登頂の記録
神の山 格聂峰	1500	240	1988年初登頂の記録
麗しき四川の夏 雪宝頂登頂	1000	240	1991年登山報告
天壇の山に挑む ミニヤ・コンカ東面	2500	310	1991年ハイローコー氷河からの登山
崑崙の頂を踏む 青海・玉珠峰	1000	240	1993年南面の記録
東崑崙・天女の山 玉虚峰に登る	1000	240	1994年日中合同女性隊の記録
ミニヤ・コンカ峰 登山と遭難の記録	3000	310	1994年ヤンズーコー氷河からの登山
寧金抗沙峰	1600	210	1997年西面からの登山報告
ナムチャ・バルワ	2000	240	ナムチャ・バルワ峰の経緯など
東部カラコルム	2000	240	インド領カラコルムの記録と研究
ネパール登山の手引き(第二版)	2000	310	手続き、登山規則などの解説など
烈風の彼方へ 佐久間隆遺稿・追悼集	1500	240	1982年冬期マナスルで遭難した
日本ヒマラヤ協会年報Ⅱ	2500	310	1981～82年の活動記録
同上 Ⅲ	2000	240	1982～84年の活動記録

外国人訪中登山管理法

(中華人民共和国体育運動委員会令第16号)

1991年7月31日国務院認可の『外国人訪中登山管理法』を、ここに公布、施行する。

1991年8月29日

主任：伍紹組

第一章 総 則

第1条 外国人の中国領内登山の管理強化と国際的登山交流の組織的推進、中国登山事業の発展促進を目的として、本管理法を制定する。

第2条 外国人が下記の中国領内対外開放山岳へ登攀する場合並びに同山岳区内において研究調査、測量活動を伴う登山をおこなう場合に、本管理法が適用される。

(1)チベット自治区の海拔5千メートル以上の山岳

(2)その他の省、自治区の海拔3千5百メートル以上の山岳

第3条 中国領内において登山活動をおこなう外国人は、中国の法律を遵守しなければならない。また、外国人の正当なる権益は、中国の法律によって保護される。

第4条 外国人の中国領内登山に対する管理は、一元的指導、責任分担を原則とする。

第5条 対外開放山岳は、中華人民共和国国家体育運動委員会（以下、国家体育委と略称）及び公安部より、公布される。

第二章 訪中登山手続

第6条 訪中登山をおこなう外国人は、自らの登山隊を組織することができる。また、外国隊と中国隊の合同登山隊を組織することもできる。

第7条 訪中登山をおこなう外国人は、国家体育委に対して文書で申請するものとする。

外国人により組織される登山隊が訪中登山をお

こなう場合、外国隊自らが申請書類を提出する。または、中国の省、自治区登山協会に委託して代理申請をすることもできる。

外国隊と中国隊の合同登山隊の場合、中国隊が申請書類を提出する。

第8条 国家体育委は、外国隊或いは中国・外国合同隊の登山申請を受理した後、60日以内にその許否決定をおこなう。併せて、外国隊或いは中国・外国合同隊、代理申請の省・自治区登山協会及び登山活動のおこなわれる省・自治区体育委に対し、文書でこれを通知する。

第9条 国家体育委の登山許可通知を受けた外国隊は、通知書に記載される登録料を納付し、併せて、通知書の指定する機関との間で、協定書に調印する。

外国隊と登山議定書に調印した機関（以下、中国側調印機関と略称）は、議定書副本を速やかに国家体育委に送付し、行政登記をおこなうものとする。

第10条 国家体育委に送付され、行政登記を済ませた議定書については、任意の内容変更があってはならない。記載の内容の変更は、議定書調印双方の協議、確認を必要とし、また、登攀の季節、ルート、山岳の変更については、改めて国家体育委の審査、許可を得なければならない。

第11条 外国隊は、中国領内登山経費の予算全額を、入国1ヵ月前に中国側調印機関宛て為替送金しなければならない。併せて、国家体育委の通知書に抛り、中国在外公館において査証取得手続きをおこなう。

第三章 登山活動

第12条 外国隊は、登山開始の前に、同隊に随行する中国公民の保険手続をおこなう。また、国家体育委の求めに従い、山岳地区の自然環境を保護するための各種措置を実行する。

第13条 外国人は、登山に際して以下の規定を遵守しなければならない。

- (1)登攀は、国家体育委の許可した山岳、ルートに従っておこなう。別の山岳に登攀したり、許可ルートを外れたりしてはならない。また、登攀する山岳、ルートを外国隊間で相互に取り替えてはならない。
- (2)外国隊は、本来の隊員以外に人員を加えてはならない。
- (3)外国隊が、その所属国国旗を提示する場合、中国国家体育委の同意を得るとともに、当該国旗と同規格の中国国旗をも提示する。
- (4)使用する山岳名称及び高度は、中国政府関係部門公布のものを標準とする。
- (5)登山ルート及びキャンプ地の環境衛生保持に努め、みだりに記念品、その他の物品を置いてきてはならない。
- (6)登山活動の結果並びに登山活動中の偶発事故については、速やかに国家体育委及び中国側調印機関に届け出る。

第14条 登山活動を終了した外国人は、登山隊としての総括報告書を作成する。

当該登山活動総括報告書及び登山機関中に撮影・録音した音声・映像資料は、国家体育委並びに登山活動のおこなわれた省、自治区の体育委に対し、無償提供されるものとする。

第15条 中国領内の山岳登頂に成功した外国人に対しては、国家体育委によって確認の後、登頂証明書が交付される。

第16条 中国領内において登山をおこなう外国人については期間中、中国側連絡官が随行する。同連絡官は中国側調印機関が指定し、以下の職務を遂行する。

- (1)外国人が中国の関連法規を遵守するよう協力、監督する。

- (2)外国人が登山活動中に遭遇する諸問題の解決に協力する。

- (3)中国側調印機関に対し、情況報告をおこなう。

- (4)外国人と中国側服務員間の紛争を仲裁する。

第17条 外国人の登山活動が中国公民の服務提供を必要とする場合は、中国側連絡官がこれを取り扱う。

中国公民の外国人に対する服務提供は、報酬を受けることができる。服務報酬の項目及び標準額は、国家体育委より公布される。

第18条 外国隊は、随行する中国公民に対し医療、救急措置のほか、宿営、炊飯に必要な用具を提供しなければならない。

外国隊は、中国側連絡官の同意なく、任意に随行の中国公民を解雇したり、または手当の支給を停止してはならない。

中国・外国合同隊が随行の中国公民に提供する医療、救急措置、宿営・炊飯用具等については、合同隊を組織する双方により協議されるものとする。

第四章 研究調査、測量を付帯する登山

第19条 研究調査、測量を伴う登山については、登山申請と同時に、国家体育委に対して研究調査、測量の実施計画を届け出、国家体育委を通じて、国家科学技術委員会または国家測量局の審査及び許可を受けなければならない。

外国人登山者は、研究調査、測量計画の許可なく、通過地区の生物、岩石、鉱物、氷雪、水質、土質に対する体系的観察、標本、サンプル、化石の採集並びに測量活動をおこなってはならない。

第20条 研究調査を伴う登山活動をおこなった外国隊或いは中国・外国合同隊は、中国側調印機関を通じ、国家科学技術委員会に対して下記のサンプル及び資料を提出しなければならない。

- (1)採集した標本、サンプル、化石の明細表
- (2)発見した新種動植物或いは稀種動植物の種群
- (3)採集した新種動植物の正基準標本、稀種動植物の種群標本
- (4)標本、サンプル、化石の屋内分析結果
- (5)研究調査を伴う登山によって得られた音声、

映像資料の複製版

測量を伴う登山活動をおこなった外国隊或いは中国・外国合同隊は、中国側調印機関を通じ、国家測量局へ測量成果の副本または複製版を提出しなければならない。

第五章 登山物質の持ち込みと持ち出し

第21条 外国人の登山において、携行必要な物資の持ち込みは、『特別輸入許可物品』と『一時輸入物品』とに分けて申請し、税関の審査、許可を受けた後、納税、担保手続をおこなう。

第22条 登山物資のうち、適当量と認められる専用食品、救急薬品、防寒衣料、燃料等消耗品は、特別免税品として持ち込むことができる。但し、適当量を超過するものについては、課税されるものとする。

国家関係部門の許可する通信、撮影、録画、測量機材と専用輸送車両については、一時免税品として持ち込むことができ、登山活動終了後は、再び持ち出さなければならない。

特別の理由により再持ち出しが困難な場合、国家体育委を通じ国家関係法規に従って処理手続を取らなければならない。

第23条 外国隊、或いは中国・外国合同隊が、登山に際し採集した標本、サンプル、化石及び作製の音声、映像資料は、関係部門の検査許可を受けた後、携行して持ち出すことができる。

第六章 罰 則

第24条 訪中登山の外国人が、本管理法第12条、第13条、第18条、第19条、第20条の各規定に違反するか、或いは国家体育委の許可なく、恣意的登山をおこなった場合、国家体育委または省、自治区体育委は、情状の軽重によって、それぞれ警告、五千元以上五万元以下の罰金、登山活動停止の処分をすることができる。

本管理法第19条並びに第20条の規定違反に対しては、さらに国家体育委または省、自治区体育委は、採集した標本、サンプル、化石及び資料没収の単一罰或いは併合罰を科すことができる。

第25条 行政処分決定に不服の当事者は、中国関係法規の定めに従い、まず行政処分再審査を請求することができる。さらに、同再審査決定に不服の当事者は、中国関係法規の定めに従い、行政訴訟を提起することができる。

当事者が、規定期限内に不服再審査の請求、行政訴訟の提起をおこなわず、且つ期限を過ぎてなお決定処分に従わない場合、処分決定行政機関は、人民法院に対し行政執行を申請することができる。

第七章 付 則

第26条 台湾、香港、マカオ同胞の帰省登山については、本管理法規定を参照、適用する。

第27条 本管理法は、国家体育運動委員会によって解釈される。

第28条 本管理法は、公布の日より即日施行される。

(訳：于莉玲)

※第1条の国家体育運動委員会は、その後、国家体育总局に変更になった。従って全て読み変える。

— P 22から続く —

六、撮 影 料

8 5 0 0 m以上の山	6, 7 6 0 ドル
8 0 0 0 m以上の山	5, 4 1 0 ドル
7 5 0 0 m以上の山	4, 6 0 0 ドル
7 0 0 0 m級の山	4, 0 6 0 ドル
6 0 0 0 m級の山	2, 7 0 0 ドル
5 0 0 0 m級の山	1, 9 0 0 ドル
5 0 0 0 m以下の山	1, 3 5 0 ドル

1999年2月7日H A J主催による「中国登山研究会」席上に於て、中国登山協会代表団から下記のような見解が示された。

(2) 撮影料について

営業用ではなく、登山隊の資料のためにホームビデオにて撮影する場合は、現行料金の半額とする。無料とすることについては、他の関係部門との絡みがあるため代表団としては回答できない。

外国登山隊に対する 登山費用徴収規定

第一条 自費で中国の山に登る外国登山隊を対象に「外国人訪中登山管理法」第17条の規定に基づき本規定を定める。

第二条 外国登山隊は、本規定に従って各費用を支払わなければならない。また、各費用の金額はUSD建てになっている。

第三条 外国登山隊は、次の費用を支払わなければならない。

(一) 登録料、預託金および予算費用

1. 外国登山隊は、中国側の関係部門と議定書を結ぶと同時に、中国登山協会に登録料を納付する。
2. 外国登山隊は、定められた期限内に預託金を納付する。納入された預託金は予算費用の一部に充てる。
3. 外国登山隊が、自己都合によって遠征を取り消した場合、既に納入した登録料と、預託金のうち50%~100%は戻戻されない。
4. 外国登山隊は、中国に入国する一ヶ月前までに予算費用の全額を納入しなければならない。

(二) 都市部のサービス費用

1. 外国登山隊（登山隊に随行する中国側要員も含む）は、山への沿線における市内でのサービス費用を請負い式で請求される。
2. そのサービス費用には、以下の費用は含まれていない。
 - ・登山隊と一緒に入・出国することが出来ない登山隊員についての出迎えおよび見送りの費用
 - ・25kgを超える手荷物および貨物の運送にかかる費用
 - ・2ドルを超える観光地の入場料
 - ・遠い郊外への観光ツアーにかかる交通費
 - ・小さな手荷物の保管料
 - ・タクシー代金
 - ・クリーニング料金
 - ・医療費
 - ・電話料金
 - ・飲み物代
3. 外国登山隊は、自己都合によって、日程および人数を変更した場合、それによって生じた損失について負担しなければならない。

(三) 中国側の連絡官および他の要員の費用

1. 報酬金
 - ・登山活動に参加する日から終わる日まで、人ごとに日数で計算する。
2. 山での食事費用
 - ・中国側の要員の山での食事は、人ごとに実際に食事した日数で計算する。
3. 登山装備の費用（キャンプおよび専門用具を除く）
 - ・一回の登山ごとに計算する。
4. 生命保険および医療保険費

(四) 山への交通費および運送費

1. 車の賃借料は、車型、走行距離および停車日数に従って計算する。また、空車の帰路費用は別に徴収する。
2. ベースキャンプの当番車は、走行距離のほかに、停車日数に応じて停車費用を徴収する。
3. 登山用の専用道路については、道路補修費を徴収する。

4. ラクダ、ヤクおよび馬の雇用料金は、実際の使用日数および滞在日数に応じて計算する。雇用期間内に動物が死亡した場合は、その地方の規則に従って補償する。

(五) ベースキャンプでのゴミの処理費用

(六) 山への沿線および登山途中で撮影、または広告にあたる記念物を設置する場合は撮影料および広告費用を支払わなければならない。

(七) 管理費

登山活動にかかる総額の五パーセントを徴収する。

本規定の各項目の費用の金額については、中国登山協会によって毎年公布される。

(第四条) 外国登山隊が、中国へ持ち込む物品・装備については、輸入税を支払わなければならない。

(第五条) 外国登山隊に対するサービス項目（例えば航空券、汽車の切符、郵便、通信、ガソリン、食品、装備）などについては、中国の規定に基づきサービス料金を徴収する。

(第六条) 本規定の解釈権は、中国登山協会に属する。

(第七条) 本規定は、公表された日から発行する。

中国登山協会

一九九二年一月一日

(訳出：張湘偉)

徴収費用の金額

(1996年度)

一、登録料および預託金

(単位：USDollar)

山の種類	登録料	預託金		
		入国の1年前までに	入国の半年前までに	入国の1カ月前までに
チョモランマ	5 0 0 0	5 0 0 0	5 5 0 0	予算全額の全残額
チョー・オユー	3 0 0 0	2 1 6 0	2 7 0 0	〃
シシャパンマ	1 7 6 0	2 1 6 0	2 7 0 0	〃
その他の八千米峰	1 7 6 0	2 1 6 0	2 7 0 0	〃
7 0 0 0 m級の峰	1 0 8 0	—	2 1 6 0	〃
6 0 0 0 m級の峰	7 0 0	—	2 1 6 0	〃

(注1) 団体の人数（第三国で雇用した高所ポーターを含む）が11人を超えた場合の登録料については、超過人数1人につき10%を別に徴収する。

(注2) 6 0 0 0 m峰未満の山（岩登りを含む）の登録料は、1人につき30ドルとする。

(注3) 初めて解禁された山、あるいは未踏峰に登山する場合は、特別登録料を徴収する。

8 0 0 0 m以上の山 2 7, 0 0 0 ~ 4 1, 0 0 0 ドル

7 0 0 0 m級の山 1 5, 0 0 ~ 1 0, 0 0 0 ドル

6 0 0 0 m級の山 1, 0 0 0 ~ 5, 0 0 0 ドル

(注4) 新しいルートに登山する場合の登録料は、通常ルートの200%とする。

(注5) ある特殊な山を解禁する場合は、中国登山協会は別の規定に基づき特別な料金を徴収する。

二、都市部のサービス費用

(単位：USドル人日)

地区	人数	1 人	2～5人	6～9人	10人以上
北 京		104.9	63.2	43.2	36.0
新、青、四、甘、雲各省の都市		102.4	59.5	40.5	33.5
県 級 以 下 の 賓 官		59.5	40.3	33.5	30.0

(注1) 以上のサービス費用には、ホテル代は含まれていない。ホテルは選択可能であるが、その料金は実勢価格を徴収する。

(注2) 同じ場所、同じ時間に隊員数が15名を超える場合は、1人を無料とする。

●チベット地区の都市サービス費用

(単位：USドル)

地区	人数	1 人	2～5人	6～9人	10人以上
拉薩飯店 (ラサホテル)		226	142	113	102
西藏賓館 (チベットホテル)		184.05	116.76	91.62	80.27
喜馬拉雅飯店 (ヒマラヤホテル)		173.24	106.76	80.81	69.46
日光賓館		173.24	106.76	80.81	69.46
日喀則飯店 (シガツェホテル)		81.08	62.16	62.16	54.05
江孜飯店 (ギャンツェホテル)		81.08	62.16	62.16	54.05
樟木飯店 (ザンムーホテル)		94.59	72.97	72.97	67.57
曲郷飯店		94.59	72.97	72.97	67.57
協格弥珠峰賓館 (シガール)		81.08	62.16	62.16	54.05
沢当飯店 (ヤートン)		81.08	62.16	62.16	54.05
県級招待所		40.54	32.43	32.43	32.00

(注) チベットの都市サービス費用には、食事代、部屋代、市内交通費が含まれている。ただし、空港からラサ市内までの交通費は含まない。

三、連絡官および中国側要員の費用

(単位：USドル)

職 務 地区 摘要	連 絡 官			通 訳			高所ポーター			BC要員			低所ポーター		
	西	新	その	西	新	その	西	新	その	西	新	その	西	新	その
	蔵	疆	他	蔵	疆	他	蔵	疆	他	蔵	疆	他	蔵	疆	他
報酬金 (人・日)	18.0	15.0	15.0	15.0	13.0	13.0	13.5	12.0	12.0	13.5	9.6	9.6	19.0	15.0	15.0
山中食 (")	13.5	13.5	10.0	13.5	13.5	10.0	13.5	13.5	10.0	13.5	13.5	10.0	-	-	-
装備費 (人・回)	270	200	200	270	200	200	405	300	300	270	200	200	-	-	-
保険料 (")	150	150	150	150	150	150	300	200	200	150	150	150	-	-	-

(注) 新疆地区は外国人の山中食を請負えるがその費用は15ドル (人・日) とする。外国側は、中国要員に燃料、炊事用具、テントを提供しなくてよい。

四、輸 送 費

(一) 車の使用料

(単位：USドル/車・km)

	チベット	その他	駐車料金	当番車の駐車料金
ジープ	0.85	0.60	70	40
ミニバス	1.80	1.20	100	—
大型バス	1.90	1.51	100	—
トラック	1.30	0.90	60	40
小トラック	1.00	0.70	50	30

(注1) 当番車の駐車料金については上の表を参照のこと。

(注2) チベット地区の空車の料金については、ファストクラスジープ、BC当番車については使用料と同料金として計算する。大型バス、ミニバスについては使用料の80%で計算、その他の車については50%として計算する。

(注3) その他の地区の空車の料金については、使用料の50%として計算する。

(二) 道路補修費

(単位：USドル/車・回)

種 類	大 型 車	小 型 車
シガールからチョモランマへの専用道路	1 6 2	1 0 8
マザーからイリクへの専用道路	1 3 5	8 1
チベットの他の山への道路補修費および草地損失費	8 1	4 1

(三) 荷役動物の雇用料金

(単位：USドル/頭/回)

動 物 の 種 類	新彊・青海・四川等	K 2 地 区
ラ ク ダ	2 3	2 7
ヤ ク ・ ウ マ	1 8	—

(注1) 停留費用は上記レートの50%とする。但し、動物の往復費用は徴収しない。また工人も別に料金を徴収しない。

(注2) チベット地区

(1) ヤクは一日一頭につき11ドル、停留期間は半額を徴収する。

(2) ヤク工は三頭ごとに一人雇用すること。

(3) ヤク工の保険料、装備費は1人につき120ドルとする。報酬金・食事代は1人1日15ドルとする。

(4) 往路と帰路あわせて4日間分の費用を支給すること。

五、山地の環境保護費

1人毎回25ドルとする。

登山隊が、国家自然保護区を通るとき、関係部門の規定に基づき、別途費用を徴収する。

六、撮影費

17ページに掲載

中国への隊荷取扱いについて

近年、中国のチベット方面へ出かける登山隊の多くは、カトマンズからコダリを経由して中国へ入境している。その場合の隊荷持ち込みのルールが次の様になり、非消費物品については供託金が必要となった。

1) 必要書類

- a. 中国からの登山許可証
- b. 日本から送付した別送品のパッキング・リスト (パッキング・リストには消費、非消費物品のリストを添付の事)
- c. エアー・ウェイ・ビル及びインボイスのコピー

2) 関税及び供託金について

- a. 消費物品に関しては、2～5%の関税が徴収される。
 - b. 非消費物品に関しては、15～25%の供託金をデポジットしなければならない。
- ※これらの関税及び供託金は、中国との国境、コダリにて荷物のチェックの後、コダリの税関に支払う。

※基本的には、別送された隊荷はネパールでオープン出来ない。ネパール国内はボンド扱いとなる。
※別送された隊荷は、空港の保税倉庫にデポジットされ、必要書類取得後、国境のコダリへダイレクトに搬送される。

3) 手続きについて

- a. ネパール観光省から「中国への登山隊用隊荷」である旨の推薦状をカスタム・ディパートメントに出して貰う。
- b. カスタム・ディパートメントから空港カスタム宛の推薦状を取得。
- c. 空港カスタムからコダリ・カスタムへの推薦状を取得。

※これらの手続きに10日程必要。

4) 非消費物品 (持ち帰り品) について

- a. 登山終了後、中国から再度ネパールへ供託金を支払った非消費物品を持ち込む場合、コダリにてパッキング・リストと実際の持ち帰り品をチェックされる。
- b. チェック終了後、コダリのカスタムから書類を取得し、カトマンズへ持ち帰る。

c. 非消費物品をカトマンズから日本へ別送し、その送り状で供託金の返戻手续をする。

※日本へ別送品として送り返さない場合、供託金は返戻されない。

※最初のパッキング・リストと実際の持ち帰り品に不足があった場合、不足分に関しては供託金は返戻されない。

※これらの返戻手続きには2週間程必要。

※供託金はネパール・ルピーで返金されるので、再度外貨を購入する事も必要となる。この場合、換金証明書15%のみが可能。

※実際には供託金の返戻手続きには大変時間がかかる上、持ち帰り品の不足などがあつたりで、これらの煩わしさから供託金を回収しないケースの方が多くである。

出来る限り、別送品として送らず、個人の荷物としてカトマンズに持ち込む方法がベストのようである。

5) カトマンズで購入した物品について

購入先のレシートとパッキング・リストが必要。消費物品と同じ扱いとなり、コダリにて2～5%の関税を支払わなければならない。

6) 個人の荷物について

カトマンズ購入品と同じ扱いとなる。

7) 無線機について

原則的には中国で使用する無線機をネパールへ持ち込むことは出来ない。

これ迄はパッキング・リストに記載しないで無断で持ち込んだようである。

以上は1995年の情報

(資料提供: コスモ・トレック)

1999年2月7日H A J主催による「中国登山研究会」席上に於て、中国登山協会代表团から下記のような見解が示された。

(1) コックについて

中国側要員である連絡官、通訳のためのコックは雇用しなくてよい。登山隊隊員用として必要であれば手配する。

■ 寸 感 ■

登山時報9月号に原真氏が「登山は会員をまず10万人にせよ」と提言している。原氏はかつて所属していたJACでも「10万人会員」を提唱していたことがある。現在、大雑把に言うと「日山協7.5万人」「登山2.5万人」で10万人が2つの大きな組織に所属する登山者となっている。日山協には勿論JACやHAJも含まれている。

昨今、山岳4団体が協力できる分野では一致して幾つかの事案に対処してきた。一組織の会員拡大が一朝一夕に飛躍するものではないことを考えると各分野で既存の団体が協力し合う型で、未組織の登山者救済を考える時代であるかも知れない。
(山森)

事務局日誌 (10月)

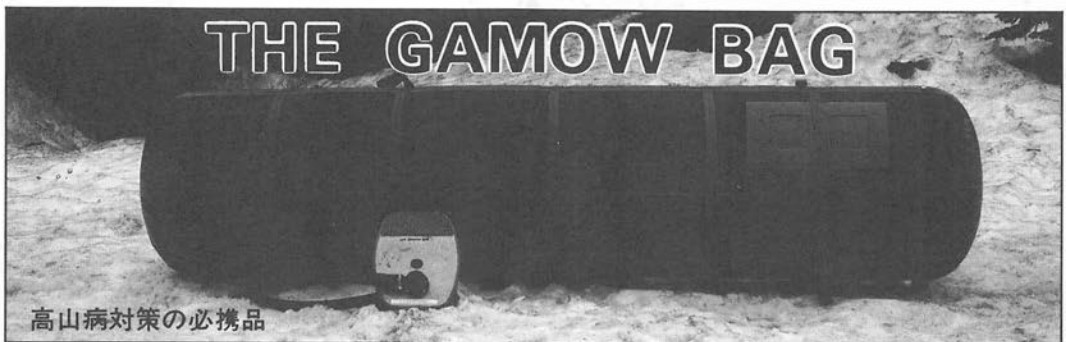
- 5日(木) 山森理事長、中国から帰国
- 6日(金) ヒマラヤ348号発送
- 9日(月) 日山協、登山、JACへ「山岳保険
共済懇談会」案内状発送

華甲該当者18名へ伺書発送

- 14日(土) ヒンズー・クシュ、カラコルム会議
於、八王子(山森)
- 21日(土) HAT-J創立10周年記念祝賀会、
於、代々木(遠藤、山森)
- 27日(金) 山岳4団体アンケート実務者会議、
於、HAJ(山森)
- 28日(土) 華甲望年会案内状発送
- 30日(月) 東京集会(20名)

ヒマラヤ No.349 (12月号)

平成12年11月10日印刷 12年12月1日発行
 発行人 山森 欣一
 編集人 山森 欣一
 発行所 日本ヒマラヤ協会
 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-2-7
 萬栄ビル501号
 電話 03-3988-8474
 郵便振替 00100-6-48954「日本ヒマラヤ協会」



高山病対策の必携品

ガモフバッグとパルスオキシメーターのレンタル開始!

加圧しただけで約2000m下山したのと同じ環境を作るガモフバッグ、高山病診断、予防のためのパルスオキシメーター。高所を目指すあなたをそろって力強くサポートします。

- ガモフバッグ(携帯用高圧バッグ/総重量6.7kg)
- パルスオキシメーター
(血中酸素飽和度測定装置/重量380g/単3乾電池4本使用/携帯型)

総代理店：日本メディコ株式会社

レンタル・販売問い合わせ先：株式会社 ティ・エッチ・アイ

〒135 東京都江東区木場2-5-7 KHビル7階

TEL: 03-5245-0511 FAX: 03-5245-0510

(隊荷の輸送、航空券の手配などもお任せください。)

TREASURE TOUR



EXPEDITION&TREKKING

自分の旅だから、自分でつくる。そんなあなたを応援いたします。

—— 遠征隊、トレッキング、秘境への旅 ——

あらゆる申請・許可取得、現地手配、航空券、山岳保険など、
お客様のご要望に遠征経験豊富なスタッフがお答えします。

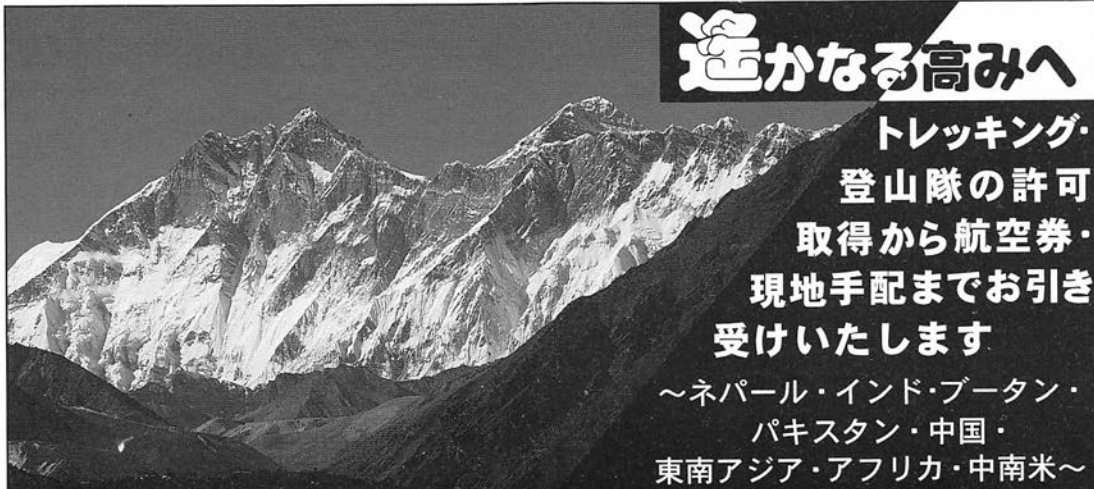


マウンテンラベル株式会社

〒105 東京都港区新橋3-26-3 会計ビル4F

☎03-3574-8880

三井航空サービス代理店2452号



遙かなる高みへ

トレッキング・
登山隊の許可
取得から航空券・
現地手配までお引き
受けいたします

～ネパール・インド・ブータン・
パキスタン・中国・
東南アジア・アフリカ・中南米～

トレッキング・海外登山・シルクロード・
秘境旅行のパイオニア



株式会社 西遊旅行

運輸大臣登録旅行業第607号・日本旅行業協会正会員

■本社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1
岩波書店アネックス5階

☎03(3237)1391(代) FAX 03(3237)1396

■大阪営業所 〒530-0026 大阪市北区神山町6-4 北川ビル5階

☎06(6367)1391(代) FAX 06(6367)1966

■カトマンズ連絡事務所 (JAI HIMAL TREKKING/SAIYU TRAVEL)
P.O. BOX 3017, Durbar Marg, KATHMANDU, NEPAL
☎221707, 224248

●格安航空券はこちらに！



キャラバンデスク

キャラバンデスク東京(住所:本社内) ☎03(3237)8384(代) FAX 03(3237)0638

キャラバンデスク大阪(住所:大阪営業所内) ☎06(6362)6060(代) FAX 06(6367)1966

◆パンフレット請求や個人旅行のお申し込みは
フリーダイヤル をご利用下さい
(通話料無料)

☎0120-811395

西遊旅行ホームページ (<http://www.saiyu.co.jp/>)

ヒマラヤへの装備

●遠征隊の装備、相談にのります。



Mt. EXPEDITION SHOP ICI ISHII SPORTS

- 登山本店 / 〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3208)6601代
- スキー&カヌー本店 / 〒169 東京都新宿区大久保2-18-10 ☎03(3209)5547代
- 新宿西口店 / 〒160 東京都新宿区西新宿1-16-7 ☎03(3346)0301代
- 新宿南口店 / 〒151 東京都渋谷区代々木1-58-4 ☎03(5350)0561
- 神田登山店 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1-8 ☎03(3295)0622
- 神田店 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1-4 ☎03(3295)3215
- 神田ウェア館 / 〒101 東京都千代田区神田神保町1-6-1 ☎03(3295)6060
- 八王子店 / 〒192 東京都八王子市横山町3-12 ☎0426(46)5211
- アネックス八王子店 / 〒192 東京都八王子市横山町3-6 ☎0426(46)3922
- 川越店 / 〒350 埼玉県川越市南通町14番4 ☎0492(26)6751
- 大宮店 / 〒330 埼玉県大宮市宮町2-123 ☎048(64)5707
- 高崎店 / 〒370 群馬県高崎市新町5-3 ☎0273(27)2397
- 松本店 / 〒390 長野県松本市中央2-4-3 ☎0263(36)3039
- 新潟店 / 〒950 新潟県新潟市東大通2-5-1 ☎025(243)6330

- 新潟ブーカ店 / 〒950 新潟県新潟市天神1-1 プラウカ3 B1 ☎025(240)2316
- 仙台店 / 〒980 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-1-8 ☎022(297)2442
- 盛岡大通店 / 〒020 岩手県盛岡市大通1-10-16 ☎0196(26)2122
- 札幌店 / 〒060 札幌市中央区南二条西4-8 ☎011(222)3535
- ルート36真栄店 / 〒004 札幌市豊平区真栄一条2-13-2 ☎011(883)4477
- 北十二条店 / 〒001 札幌市北区北十二条3-5 ☎011(747)3062
- 2番街店 / 〒060 札幌市中央区南二条西1-5 ☎011(219)1413
- 旭川店 / 〒070 旭川市六条通8-37-2 ☎0166(24)5300
- 外商部(メルオーダー) / 〒169 東京都新宿区百人町2-2-3 ☎03(3200)7219



ICI 石井スポーツ

事務所 / 〒169 東京都新宿区百人町1-4-15 ☎03-3200-1004